丘友會会報

発行 亀山市本町
亀山高校内
丘友会
編集 渡辺覚
蔵城照子
福岡佳子
平尾栄司
印刷 一誠堂

二十年を迎えた丘友会

副会長 森 信夫

丘友会のみなさん、お元気のことと心よりおよろこび申しあげます。

平素は母校ならびに同窓会（丘友会）発展のため格別のご支援とご協力をいただき厚くお礼申します。

今度会報の発行に当って、ひとことあいさつをと依頼をうけましたが、日頃丘友会のお世話もろくに出来ず、いささか申訳けなく思っている次第です。

さて歳月のたつのは早いもので昭和三十一年に鈴鹿高女と亀山高校の同窓会が大同団結して、早や二十年を迎えようとしています。

ご承知のように母校はめぐまれた環境のなかで、すぐれた教育施設、設備の充実、熱心な教職員各位のご指導、生徒諸君の真面目な態度など徐々発展の姿は、まことにうれしい限りであります。

丘友会もいつの間にか会員一万四千人を超える大世帯に発展しました。そして鈴鹿高女または亀山高校の卒業生として、亀山市はいうまでもなく、県下各都市、全国各地で活躍していられる会員の消息を聞くとき、ただただ力強い感激を覚えるのであります。

私はある日、久しぶりに親しい友人と出合い雑談にふけったことがありました。つい話は自分の息子や娘のことに移りましたが、お互いに、もう高校生の子供を持つ年頃で、過ぎ去った私たちの高校生時代と比較してみたり、なつかしい高校時代の想い出話しが次から次へと湧き出て、つい時間の経つのを忘れて語りあいました。

この時ほど、ひとしお高校生活がなつかしく思えてなりませんでした。

なんでもないことでお互いにこうしたことは体験されることと思いますが、日常生活の中で、たとえ一ときでもいや年に一度でも高校時代を想い出し、なつかしかった学窓、恩師、先輩、級友を回想するときが、同窓会であり丘友会の意義があるのではないだろうか

このようなことを思ったとき、永久に丘友会の灯を消してはならないと、ひとり言をつぶやきました。

終りに会員各位のご多幸と母校の発展をお祈り致します。

秋も深まって

学校長 佐藤孔久

丘友会の皆様、ご無沙汰致しておりますが、ご機嫌よくお過ごしのことと存じます。

昭和五十年もそろそろ十二月を迎えます。学校も学習環境の整備に全力を注いでおります。県、地元、PTA、同窓の方々の物心両面のご協力により管理棟も現在建築中です。まだまだこれからの面が多いのですが、夢だけは大きくもっています。この校舎で高校三年の青春多感な時代をすごす生徒たち、立派に育ってほしいものです。

亀高も現在では、普・商・家・保、ふたば園園児、夜間定時制生徒を併せて千六百人の大規模校の一つです。それだけに昔とちがった色々の問題をかかえ、頭をなやますことも多い状況です。世の進展に伴う共通の現象でしょうか。

今日は祝日でしたが、鈴鹿市体育館での第一回マーチングバンド中部大会に鼓隊の生徒と一緒に参加して来ました。全日本マーチングバンド連盟、三重県吹奏楽連盟の主催、三重県教育委員会の後援するものですが、三重県からも松阪市高校合同マーチングバンドを中心に愛知、岐阜、静岡、福井の有名出場校に伍して、第三十回三重国体の練習の成果をかかげ、亀高鼓隊も出場しました。十一月初旬の身障者スポーツ大会終了までの三重国体式典音楽鼓隊の練習と苦闘、式典音楽参加の亀高吹奏楽部の諸君の健闘とともに、ながく忘れられないものとなりました。

国体前の六月、亀高放送部が練習中の鼓隊を題材と作成した「鼓隊青春記」は、第二十二回NHK杯全国高校放送コンテスト三重県予選一位入選作品、全国大会参加作品となり、鼓隊の指揮者となった保育科三年生徒の作文「保育科に学んで」は、昭和五十年度三重県産業教育振興会の入選作品にえらばれました。各科、各部の活躍もめざましく、三重国体で活動した本校の職員、生徒の高き評価、嬉しいことです。縁の下の役割を果たした人たちのことも忘れられません。職員、生徒一体となって理想をめざす現状を同窓会の皆様に報告したいと思います。

国体炬火リレーにも、女子生徒十七名、男子生徒十七名の二チームが参加し、その大役を果たしました。昔の亀高生のイメージとはちがうかもしれませんが、新しい姿の亀高生がそれぞれの立場で頑張っています。国体の炬火台上の炎々と燃える火は今消えましたがその火以上の火が亀高生の一人一人の胸の中に赤く燃えつづけ、先輩の皆様につづくたくましく、たのもしい若者に育ってくれることを確信しております。

通学途上のあの校並木の木々も奇麗に紅葉しています。先日も雨にぬれた坂道で拾いあげたどんぐりの実二つ、庭の下の真赤な柿の実、此処には数十年前と変らぬ昔のままの静寂さがただよっていました。

同窓会の皆様のご健勝をお祈りし、近況報告にかえます。

本校の現況

教頭 菊田栄一

丘友会の皆様、ご壮健にお過しのことと拝察いたします。ここに本校の現況の一端を述べさせていただきます。

「たくましくあすをひらこう」をテーマに、県下各地で開かれた第三十回みえ国体は、本県が天皇皇后両杯を獲得するという輝かしい栄光と数々の成果を残して閉幕いたしましたことはご承知の通りであります。本校におきましては少年の部でソフトボール、ハンドボール、ウエイトリフティング、体操に十名の生徒が、また、成年の部ではウエイトリフティング、バレーボール、剣道に五名の教員が、それぞれ三重の代表選手として出場いたしました。選手は皆、栄冠を胸にと遠征試合、強化合宿等、連日猛練習を重ねて本番に備えました。相手も強豪ぞろいのことして、職場においては、期待と不安の交錯した雰囲気の中で、ひたすら、その成功を祈っていたのであります。選手のたくましい闘魂と県民の皆様の声援により、多くは持てる力を十分発揮して戦い下表のような成績を収めました。

少年の部

競技名	出場者数	個人成績	団体成績
ウエイトリフティング	一	ライト級第二位	第一位
体操	一		総合第七位
ハンドボール	一		第三位
ソフトボール	七		一回戦で惜敗

成年の部

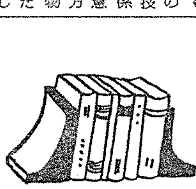
競技名	出場者数	個人成績	団体成績
ウエイトリフティング	一	フェザー級第一位	第二位
バレーボール	二		第二位
剣道	二		第一位

また、国体開閉会式の式典音楽部門に吹奏楽部から二十五名、鼓隊部から四十五名の生徒が出演し、大変好評を博しました。休日は殆ど返上して、現地での総合練習、合宿練習等を折り込んでの猛練習の連続でした。殊に鼓隊は保育科四十五名で編成された亀高生だけの楽隊であり、全校一丸となってその成功を期待したのであります。ここに国体も無事に終り、四十八年から登り初めた一連の大山を踏破した感慨は、その終末を迎えて感無量のものがあります。

昭和四十五年から改築の始まった校舎建築は、四十六年度までに第三棟（普通教室棟）が、四十八年度までに第一棟（理科、家庭と商業の一部を含む特別教室棟）がそれぞれ完成し、今年度中には管理棟の半分（タイプ実習室、社会科教室、書道室、保健室、放送室、用務員室、宿直室）が改築されることになっております。本校としては残り半分（校長室等管理室四、図書、視聴覚関係室三、商業教室三）の改築についても、早急に実現されることを切に願っているものであります。また、近い将来の構想として、音楽教室、保育、技術室、器楽練習室等、保育科関係施設の充実と体育館の改築に鋭意努力する所存であります。皆様方には改築工事が始まって以来、物心両面にわたってご協力をいただいて参りましたが、今後とも宜しくお願いいたします。

一昨年の石油ショック以来、引き締め政策の影響で、不況の波は生徒の就職に深刻さを加えてきました。会社の採用通知書を見るたびにひしひしとそれを感じます。就職内定生徒数も昨年同期の七〇％に過ぎません。ややもすれば安易に走る現代っ子に対して、学習面においても生活面においても、一段ときびしさを要求し、気力と根性をもった生徒の育成に努力したいと考えております。つきましては、同窓生諸賢氏におかれましても、後輩のためにご指導ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

では、丘友会の皆様、どうかご健勝にお過し下さい。



校庭の木々によせて

勝田神能

昭和二十二年九月から五十年三月まで、鈴鹿高女と亀山高校にお世話になった。近年、教え子の子供さんが次々に入学されて、親子二代を受け持つ嬉しさを味わいました。

先生方、丘友会の皆様のご厚情に深謝いたします。湯の山線高角駅の北にある理科教育センターで亀高出身の先生方が、研修に来られるのを楽しみにしています。亀山高校で、外庭管理を担当しましたので、校庭の木々の現状を簡単に報告したいと考えます。

旧商業、理科校舎の南西の畑にヒノキが一本直径十六糎になっています。皇太子殿下ご成婚の記念樹で、校舎完成の時には、適地に定植を願います。その近くのムクノキは、珍しく程太くなり、直径三十一糎で、何十年か後には、標本の大椋のように天下の巨木になります。同校舎北側のヒムロは佐野武治先生のさし木苗が生長したもので、直径十五糎になっています。シダレヤナギは、隣の三重大学北庭の大木の苗で、その校舎も樹木も皆無なので、唯一の生存者といえましょう。

メタセコイヤは伊勢湾台風で、上半分が吹き飛びましたが、今は傷跡もなく、直径二十六糎です。旧生物室、今の図書室の東のミザクラ、ヤツデ、マサキ、コデマリが旺盛に生成しています。これらは、女学校校舎玄関の両側のもので、中井先生が生物の時間に移されました。タイサンボクは、本会報第六号（四十六年六月）図フジ校様の玉章のように、第一棟建設で無くなりました。旧家庭科教室西のプラタナスは、直径五十五糎もある雄姿です。その西側、毎年の入学式を祝う桜も元気です。旧講堂前のヒマラヤスギは、一本だけ残っています。台風の傷から回復に向かっています。校門の両側のイチョウ、コウヨウザン、クスノキなど、第三棟建設にも残されるようで、設計、施行の方々のお心尽しに感謝したいと思います。校舎完成の時には、亀山高校の歴史と威風を表現してくれるでしょう。

全国総体を飾ったサルビア花壇のデイゴ、フヨウは、校地の南西隅に移り健在です。

南斜面のツクダツボクは、広島市の戦災地に萌え出たのを移植したのが増えました。原産地台湾ではないと見られぬ壮大な群落を作ってます。運動場北側の桜は、卒業生の一人が結婚記念に植えてくれたもので、よく育っています。丘友会の皆様、校庭の木々は、ご来校を待ってます。樹下に回想して下さい。

総会のおしらせ

第十八回丘友会総会を次の通り開きます。正月のご予定もあろうかと思いますが、万障おくりあわせの上、ぜひ出席してくださいますようお願いいたします。

なお、これをもって正式通知とし、各会員宛には案内状をさしあげませんから、ご了承ください。

記

一、日時 一月三日 午前十時
一、場所 亀山高等学校給食室
一、おもな協議事項
1、経過報告
2、会計報告
3、役員改選の件
4、その他

近況に寄せて

角谷正彦

亀高を卒業してからもう二十年余になりますが、図らずも昨年から三重県庁に奉職することとなり旧交を暖める機会が増えたことを喜んでおります。

亀高にも久しぶりに訪れる機会を得ましたが、すっかり鉄筋化され立派になっていることに驚きつつも、昔日の面影がなくなっているのに淋しさを感じました。

ところで、一世代は約三十年ですから、われわれが卒業してすでに一世代を経た（同期生のお子さんも何人かは在校中でしょう）こととなりますが、この間わが国の経済は世界的にも類をみない高度成長をなしとげ、社会全体として成長と繁栄の成果を享受するようになりました。終戦直後の絶対的な食糧や物資の不足、教科書すら満足になく、六三制実施直後のバラック校舎で学んだわれわれには現在の完備した施設設備、豊富な書物等は羨しい限りです。またこの間、高校進学率は倍増し、すでに九〇パーセントを超えて高校教育は非義務教育化しつつあります。そのこと自身は喜ばしいことといえましょうが、その反面、高校教育に寄せられる一般の期待と実際上の役割（又は内容）との間に乖離が目立ってくる等、深刻な問題が内蔵されているように思えます。現在は、家庭教育、社会教育との分担関係を含め、学校教育全体がある意味では転換期にさしかかっていると考えられ、本校の先生方も色々と御苦労の多いことと推察しています。

話は若干飛躍しますが、わたくしは、教育に限らず現在の時代そのものが一つの転換の時期に直面しているのではないかと思います。

戦後三十年間の復興、成長、繁栄の時代は、日本人の勤勉さ、教育水準の高さが寄与したことは勿論ですが、同時に、永く続いた世界平和とその下での自由貿易、通貨体制、外国からの豊富低廉なエネルギーや食糧の輸入と技術の導入、国内における多量の労働力の存在等々、内外の諸条件がわが国に有利に作用したことを忘れてはならないでしょう。そして、その間、われわれの経済、社会さらには思考体系すらも、長期に持続する高度成長を与件としてビルト・インしてしまった感があります。

しかし、現実には、わが国をとりまく諸条件は急速に変りつつあります。一昨年の世界的不作による食糧価格の高騰、OPEC戦略による石油危機は、資源エネルギーの無制限な安定的供給可能性に深刻な疑問を投げかけ、これらの面での自給率が極めて低いわが国経済の基盤の弱さを示しました。南北問題や世界経済のブロック化は、自由貿易体制の修正を余儀なくしていますし、先進諸国を同時におそっている石油価格の上昇、不況と物価高の併存は世界経済全体を縮少均衡に導いています。

国内的にも、環境問題の発生から工場立地には各種の制約が生じ労働力も総体的には不足基調に転じており、また、経済成長中心の価値観には多くの批判が寄せられています。

以上の諸情勢からみて、現在のわれわれは戦後三十年間の垂直的上昇の時代から新たな価値（判断）選択のための模索の時代への転換期にあると思います。

我田引水で恐縮ですが、三重県に限らず現在の地方財政（国の財政も同様です）は、経済不況の長期化により税収入は激減した反面人件費その他の義務的経費は引き続き増嵩し、その収支は大幅に赤字となるという情勢にあり、しかも、このような傾向は少なくとも今後二、三年間は続くものと予想されます。現実に、県の行政の中で、わたくしにとって一番頭が痛いのがこの問題です。

高度成長時代には、その果実である豊富な税の自然増収によってそれぞれの財政需要を適当に満足させることも可能でしたが、これからはそのようなことは殆んど不可能になっています。政策に厳しく優先順位をつけ、選別化するとともに相応に住民負担の増加も求めていかざるをえない状況です。

このことは勇気のいる、また、不人気なことですが、さもないとニューヨーク市のような破産状態に追いこまれることとなります。とくに、高度成長時代の財政に付着していた「甘え」の部分を見直し、行政分野と住民負担との関係を原点に立ち返って再構築していくことは、これからの時代に即応した行財政の運営のうえで、ぜひ必要な作業であると考えているこの頃です。

校舎改築募金　御協力ありがとう

昭和四十五年より五カ年計画で改築工事が進められてきました。途中、石油ショック以来の資材高騰により工事も予定より遅れ、あと管理棟の半分を残しております。しかし、あと一息、これも会員諸氏のご協力、ご支援の賜ものと役員、理事、係一同心より感謝しています。ここにご報告申し上げます。

なお、丘友会総会の折、学校長佐藤孔久先生に会長より目録をお渡しする予定です。

募金現在高
（50.7.26現在）

振替送金	981,280円
現金	2,099,457円
計	3,080,737円

完成した校舎

職員の異動

春の人事異動により、左記の方々が退職、転出されました。永年お世話下さって、ありがとうございました。

氏名	在職	異動先
下村幸七	22年	退職
大原利三郎	22年	〃
澤野敏郎	5年	〃
今村俊子	3年	〃
勝田神能	27年	理科教育センター
高野治	24年	白子高校
曽我幸夫	15年	上野工業高校
後藤忠厚	8年	飯野高校
小田純子	6年	津工業高校

左記の方々が転入されました。今後、母校のために宜しくお願い致します。

氏名	教科	氏名	教科
和田三喜夫	国	黒川純子	英
岡山澄	〃	崎久保文子	家
鈴木征一郎	理	平尾栄司	商
河合眞	保体	古川芳彦	〃
内海均	〃	廣垣正治	事務
細野信幸	〃		

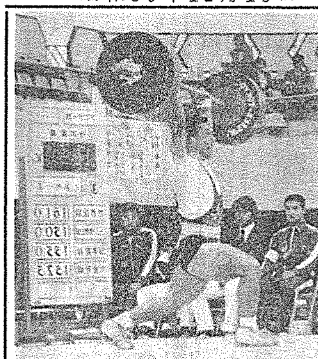
会員の住所変更

住所変更の連絡がありましたのでお知らせします。なお、これ以外にも多数あろうかと思いますのでご連絡下さい。（五十年度分）

卒業年次	氏名	旧姓	新住所
S29	中川すみ子		神奈川県中郡二宮町二宮二〇二六−二
S30	服部賞		尾張旭市柏井町公園通八七−四
S31	服部都美子	佐々木	〃
S38	平尾栄司		亀山市楠平尾町四七−二
S43	宮村輝代	西村	〃下庄町神向谷
S43	中原克子	宮村	〃井尻町上野三〇九−三

母校だより

みえ国体に活躍した亀高関係者



平井選手

みえ国体開催決定以来、合宿、遠征と連日連夜の猛練習を重ね、勉学、公務の両立と更には、腰痛骨折等身体的な故障にもめげず幾多の苦難を越えての永い生活が続きました。その間先輩諸氏のご指導ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

天皇・皇后両杯の獲得に活躍した本校関係者をご紹介いたします。

「演技」好評であった集団演技の旗隊は、保育科二、三年生四十五名は保母試験とのかかわりの中で苦しみながら国体に花をそえました。一方、大吹奏隊八〇〇名の中に本校吹奏部員二十五名が参加しておりました。

「競技運営」広瀬薫先生バレーボール、平岡一能先生ウエィトリフティングと共に副委員長としてその他各種目の役員、補助員として多くの職員、生徒が参画しその大役を果たしました。競技者として「丘友会員」では、バスケットボール・教員、服部原照（八回卒四高教員）選手拱谷英一（二十回卒一志小教員）ウエィトリフティング・上田稔（二十六回卒中京大生）ハンドボール教員の部・監督選手中根武彦（十回卒津女子高教員）ソフトボール成年女子、若林満子（二十五回卒）高橋すずよ（二十六回卒）布引明子（二十七回卒）共に東洋紡鈴鹿が大いに健闘されました。

「現職及び在校生」ウエィトリフティングは世界的リフター平井一正先生は成年フェザー級に日本タイ記録で優勝、少年ライト級に別所均三年生が二位「剣道」教員の部優勝の立役者として稲生・細野両先生の活躍が光りました。「バレーボール」教員の部で武者・内海両先生の活躍で準優勝「ハンドボール」少年男子三重のポイントゲッター三浦智二年生が気を吐いた。「体操」少年女子三重の主将森房文恵二年生が佳麗な演技をする。「ソフトボール」少年女子三重監督木村を筆頭に選手十二名中主将松井みどり、松本くみ子松屋千津子三年、河村有恵、北沢聡美、福井利恵子、森口かね子二年生が中心となり活躍しましたがプレッシャーのため実力が出せず緒戦に敗れました。

みえ国体を機に本校は勿論地域の体育振興に努力することを願って報告といたします。

（木村記）

文化部の活動成果

今年は、三重国体があって運動部の選手の活躍が話題を呼びました。しかしその中にあって文化部は先輩の教えを受け継ぎ部の伝統を守ろうと地味な活動乍らもこつこつと成果を挙げています。

成功に終った国体には三年前に歩み出した鼓隊部が華かな演技を披露して努力の実を結びました部員数三十九名の吹奏部も夏・秋の国体で式典音楽を担当して協力しました。その多忙な日程の中でも八月の県吹奏楽コンクールで銀賞を受けています。また、校舎建築途上で施設や部室が完備されない中でも、流星観測をすでに一回も実施して成果を収めている科学部・教室の片隅で間借りしながらも保育科生徒を中心に活動している人形劇部、夏休みには講習会を開き国家試験に備えたアマ無線部や波切へ写生旅行に出かけ、学園祭に発表した美術部などが上げられます。

最近の物価高騰は部活動にも押し寄せ、少ない予算を苦心して使いながらも二五号の発行を積み重ねている新聞部、機関誌「鈴鹿」を三〇号に数えるに至り、「椋本地区の総合調査」を発表した郷土史部の業績もあります。新課程になって全校生徒が週一時間、クラブ活動を始めたことによって部員に変化の起こった英語部や生物部、JRCは顧問の力強い指導により苦境を乗り越えようと活動を続けています。その中で低調であった演劇部が再起をはかり、学園祭で上演して好評だったのをはじめ、県合同発表会において念願の入賞（第六位）を果たしています。また、ここ五年連続して県大会で上位入賞を果たし、他校からも注目されている放送部は今年も二部門で一位を獲得し、東海地区でのコンクールでも奨励賞を受けています。全国大会に毎年出場しながら惜敗していますが新設の放送室への移転に伴い、今後の活動が期待されます。女生徒に人気の高い茶道・華道部も新館の明るい教室で楽しく活動を続けています。しかし、数年前と違って部活動に腰を落ちつけて取り組み、三年間に何かを得ようとする気概の生徒が少なくなった、という顧問の声がきかれるような現状です。

（文責　川合　幸夫）

慎しんでご冥福お祈り申し上げます。
故　池上悦十郎先生
（八十一才）50・2・25

編集後記

始めに会報の発行がたいへん遅れたこと、お詫びいたします。さて「激動する」ということばがよく使われるように、何もかも激しく変動していく中で、母校も例外ではありません。以前の古い校舎は姿を消し、今や真新しい四階建て鉄筋校舎で後輩諸君は勉学スポーツに勤んでいます。

会員一同、母校のより一層の発展のため側面からの協力をお願いいたします。

会報を更に充実し、親しみのあるものにしたいと思っています。原稿を事務局までお寄せ下さい。